

～市民がつくる～

三木市男女共同参画センター情報誌



こらぼーよとは
Collaboration
コラボレーション
(共同・協働)と
～しようよの組合せ

みんなで
男女共同参画社会実現
に向けて活動しようよ

第59号 2022・冬



- * 70代夫婦のボチボチ一人旅
- * 三同教研大会報告
- * いまだきの性教育
- * 子育て世代のワークライフバランス
- * 今後の男女共同参画センター主催の講座



男女共同参画セミナー

「辞書を編む

～ジェンダーの視点から
国語辞典を見直して～

講 師：荻野 真友子さん（株式会社 三省堂 出版局 辞書出版部）

と き：令和4年3月5日（土）13:30～15:00

と こ ろ：三木市立教育センター4階 大研修室

70代夫婦のボチボチ二人旅

とある夫婦の日常をそれぞれの立場で書いた手記です。

私が定年になり両親を見送った頃、夫が米作りの他に黒豆栽培をすると言い出した。「家でする仕事だから家族が協力するべき」と言うので「え!?」と思ったけれど、一人では出来ないことは分かっていたので手伝うことにした。

自分の背丈より高く積み上げるぐらい草引きをしたこともある。一番大変だったのは脱粒。刈り取り、乾燥させた豆を腕いっぱいに抱え足元も見えないままアップダウンのある豆畠から脱粒場所に運ぶのだ。重い豆の入った袋を必死で土手の上まで運んだこともある。

そのうち太ももと臀部が痛み出し、整形外科で変形性股関節症のステージ3と診断された。治ることはないので人工股関節になるという。炎症と痛みを和らげようと半年ぐらい毎日湿布を5、6枚貼り続けた。症状は治ったが、骨の変形は残り可動域は狭くなった。

豆代をいくらか稼ぐために不自由な体になるところだった。再発は防ぎたい。

定年退職後よい再就職先が見つからず家業の米作りをしていたところ、近所の人に教えて黒豆栽培を始めた。

しかし、これがまた手のかかる作物で、収入は米より少しマシだが、土づくり、播種、草とり、虫よけ、11月になれば葉っぱ取り、刈り取りと乾燥、脱粒、機械選別に手選別と人手がなくてはとてもやれない。妻も手伝ってくれたが、妻はそのうち脚が痛み出し変形性股関節症と診断された。その後、妻は畠で野菜作り、私は米と豆作りをしている。

夫は昼食も「まごにわやさしいよ*」の食事をしたいという。食事の大切さはよく分かっているけれど三食ともそんなことをしていたら、私は台所にはりつけになる。そんなことにはなりたくない。今は各々マイペースの昼食をすることになっている。

以前の夫は私の外出にどこへ行くのかなどと聞くことが多かった。そこで私は「私がどこへ行って誰と付き合って何をしようと私の自由」と夫に伝えた。このごろはどこへ行くのか、いつ帰るのか言っていない。行動を縛られたくないのだ。急ぐときはスマホがあるしね。

夫は元々、家族制度や女性の権利に関心がある人なので私の言うことをきちんと理解していると思う。いろいろとぶつかり合いながら妥協点を見つけていく暮らしが続きそうだ。

妻が一年遅れで退職した時、昼食まで気を使うのは嫌だと言うので自分で作ることにした。朝の味噌汁を鍋に少し残しておいて、薄味の寄せ鍋のようなものを作る。

入れる材料も自分で買ってくる。「今日は魚と肉が安い、この頃人参が高いなあ」など週一回のまとめ買いがなかなか楽しい。ピーマン、菊菜、ゴーヤ、トマトなど自分用の野菜も育てている。納豆、ヨーグルトなども加えて我ながら豪華な昼食だ。妻は自室で録りためていた韓国時代劇ドラマを見ながら体重調節の昼食をネコと一緒に食べている。

私は洗濯も自分の洗い物をネットにまとめておき、洗い終わった洗濯物の中から取り出して、居間の廊下に自分で干す。こうすると農作業の後の着替えなどにとても便利なのだ。他の衣類も使いやすいうまく全部管理している。

妻は自分のやりたいことがいろいろあるようだ。忙しく出歩いているので、私はグチを聞いたり、時には感想を言ったり、陰ながらの応援といったところである。

自分も妻もそれぞれに、そこそこ健康で忙しく過ごせているのが何よりだ。

* 編集委員Kさんにご夫婦で執筆していただきました。

* ま(マメ)・ご(ゴマ)・に(ニク)・わ(ワカメ)・や(ヤサイ)・さ(サカナ)・し(シイタケ)・い(イモ)・よ(ヨーグルト)



「レズビアンの保健室の先生が、性の多様性についてお話しします」

講師:井上鈴佳さん

養護教諭として勤務されていた経験と当事者(レズビアン)の視点からお話しされ、どんな性の児童生徒も差別されることのない教育や、性のあり方に悩む子どもたちへの接し方について学びました。11人に1人はいると言われているLGBTの人を身近な存在と認識して生活するのか、自分には関係ないとするのか。無関心な社会、また「男らしさ」「女らしさ」というジェンダーの縛りから抜け出せない社会は、性的少数者のみならず誰もが生きづらい社会だと思います。「自分らしく」生きられる社会であるためにも、多様な性のあり方について知ることや個性を否定せず認めることができます。(編集委員:T)

自分を受け入れられず本当の自分を出せない、自分の将来を思い描くことができず不安を抱いている、異性愛を前提とした保健の授業で「自分はおかしいのでは」と悩んだといった当事者の思いに周囲がもっと敏感に気付くことが大切だと思います。(編集委員:T)

いまどきの性教育

皆様、「性教育」というとどんなイメージでしょうか? 小学校高学年の時、体育館や特別教室に集められ、男女別にビデオを見て…とか、女子だけ集められて…等、あまり明るいイメージではなかった方もいるかもしれません。

先日、市内の小学5年生が受ける「性に関する授業」を受けさせていただく機会がありました。保健の先生手作りの資料で、子どもたちに対して、ひとりひとりがたくさんのご先祖様から受け継がれてきたかけがえのない存在であることから始まり、プライベートゾーン(水着で隠れる部分と口)を大切にすること、精通、初経のしくみ、生理用品の使い方まで説明してくださいました。すべて男女一緒に授業を受けるそうです。

また、以前この紙面でも告知した市民企画講座「どうやって生まれてきたの? ~命を受け継ぐ

「アライ(「味方」の意)になってくれませんか?」と今日からできることを教わりました。

○周囲に当事者がいることを意識して、使う言葉を変える。

(おかま・ホモ→「ゲイ」、レズ→「レズビアン」、元女・元男→「トランスジェンダー」)

○無意識の偏見に気づく&なくす。

(彼氏・彼女→「恋人・好きな人・パートナー」、男らしい・女らしい→「自分らしい」)

○性に対する自覚は変わったり揺らいだりすることもある。すぐに決めつけたり、解決に走ったりしない。どうして欲しいかは人によって違う。その人がどう考え、何を望んでいるのか、本人の気持ちに寄り添い、時間をかけてじっくり話し合う。

プログラム～」でも、講師の先生から子どもたちに直接命の大切さやプライベートゾーンを大事にしなくてはならない理由を伝えていただきました。また、CG動画で再現された精子と卵子の出会いから出産までのドラマチックな様子に解説をつけてわかりやすく教えてください、子どもたちも動画にくぎ付けになっていました。

性教育というと、大人自身が子どもにどうやって伝えたらいいかを教えてもらう機会がなかつたので動搖していますが、今は伝えやすい動画や書籍もたくさんあります。発達段階に応じて、適切な情報を提供できるよう、まずは困りごとや疑問について家庭内で話しやすいような雰囲気を作つておけたらいいですね。(編集委員:A)

みすぎでかくれるところは
じぶんだけの
だいじなところだからだよ



文部科学省「生命(いのち)の安全教育教材」より

【性教育に関する書籍紹介】男女共同参画センターの図書コーナーにて貸し出し中!



おうちせいきょういくえほん

主婦の友社

La ZOO (著)

アクロストン(監修)



いま、子どもに伝えたい
性のQ&A

主婦の友社

アクロストン(著)

子育て世代の ワークライフバランス

内閣府によると、「ワークライフバランスとは、仕事と生活の調和をとって、その相乗作用で両方を充実させる働き方や生き方のこと」とあります。子育て世代の私の場合を振り返ってみると、普段から意識していることが3つありました。それは「仕事タイム」「家族タイム」「自分タイム」の確保と内容の充実です。いずれかの時間が少ない、または内容が充実していないなどバランスが崩れると、仕事においても家庭においてもマイナスに働いてしまうことが多かったです。反対に3つのバランスが安定しているときは、自分自身の充実感につながります。今回は特に子育て世代ではなかなか確保しにくいと思われる「自分タイム」について、取り組んでいることをお話しします。

まず「自分タイム」とは、自分のやりたいことに取り組む時間のことです。例えば、スポーツや読書など趣味に没頭したり、横になってゆっくりとゴロゴロしたりなど、人によって様々です。

この「自分タイム」はパートナーも同じように必要です。

以下の取組はパートナーの「自分タイム」を作るために私がしていることです。

子育てる中、いかに時間をうまく使い、「自分タイム」を持っていけるかが鍵となります。我が家家のベストスリーはこんな感じです。①子どもをなるべくはやく寝かしつける。→私も一緒に寝てしまうことが多いですが、結果的に、私は早朝に、パートナーは夜に「自分タイム」の確保ができます。②休みの日に子どもと遊びに出かける。→結果、私は子どもと一緒に過ごす時間が増え、パートナーは「自分タイム」ができます。③基本的に家事は分担して行っていますが、どちらかが疲れているときもあるので、その時は交代して疲れている側の「自分タイム」を増やしています。

以上、ほんの一例ですが、お互いの「自分タイム」を充実させることを意識して、日々のワークライフバランスの実現に向けて取り組んでいます。

*子育て世代の男性市職員に執筆していただきました。

—*・* 今後の男女共同参画センター主催の講座 *・*—

テーマ	講師	日時	会場
男女に学ぼう防災	斎藤 容子さん (関西学院大学災害復興制度研究所 主任研究員・准教授)	令和4年2月15日(火) 13:30~15:00	中央公民館 4階 大ホール
辞書を編む ～ジェンダーの視点から 国語辞典を見直して～	荻野 真友子さん (株式会社 三省堂 出版局 辞書出版部)	令和4年3月5日(土) 13:30~15:00	教育センター 4階 大研修室
自分らしく生きる ～LGBTってなんだろう?～	藤原 直さん (LGBT活動家)	令和4年3月16日(水) 10:00~11:30	緑が丘町公民館
男らしさ・女らしさはつくられる ～メディアが及ぼす影響～	家島 明彦さん (大阪大学キャリアセンター副センター長・准教授)	令和4年3月17日(木) 13:30~15:00	志染町公民館

★セミナーは事前申込が必要です。

三木市男女共同参画センター

愛称 “こらぼーよ”

三木市福井 1933-12

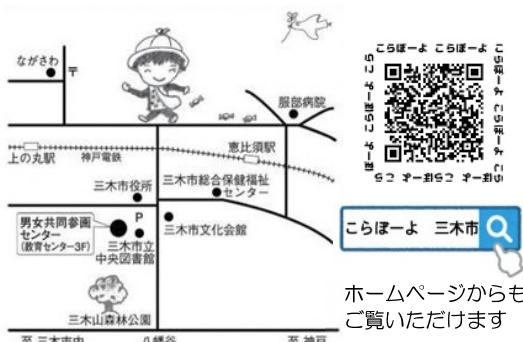
三木市立教育センター 3階

TEL&FAX : 0794-89-2331

開館日時：月曜～金曜 9時～17時

(※祝日を除く)

企画・編集：情報誌“こらぼーよ”編集グループ
発行：三木市男女共同参画センター



—* 編集後記 *—

国の調査によれば共働き世帯の割合は全体の6割を超えていました。一方、1日の中で夫が家事、育児に関わる時間は妻の5分の1以下。

そんな日本でも令和2年度、男性の育児休暇取得率が初めて1割を超えるました。(過去最高の12.6%) これからに期待したいですね。

(編集委員：I)

